

株式会社タイガアソシエイツは、
 国連が提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同し、
 企業としてSDGsの達成に貢献する事業を推進することが
 重要課題であると認識しています。

株式会社タイガアソシエイツは、SDGsの17の目標のうち3・5・17を取り組むべき
 課題とし、すべての妊婦が健康で穏やかなマタニティライフを過ごして無事に出産・
 産後を迎えることができるように、医療機関と連携して事業を展開し、持続可能な
 社会の実現に貢献していくことを宣言します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
 世界を変えるための17の目標



取り組むべき課題



SDGs(Sustainable Development Goals)への取り組み

01

	サステナビリティ重点項目	当社の主な取組み	SDGsとの対応
3.1	<p>妊産婦の死亡率を削減する</p> <p>2030年までに、世界の妊産婦の死亡率を10万人当たり70人未満に削減する。</p>	<p>「Maternity bouquet」は産婦人科・産科に導入することで、妊婦さんの産前・出産・産後に関し、癒しの提供や医師との意思疎通、家族の絆を深めスマートフォン等で撮りためた画像・映像を基にした感動自動生成ムービーが、メインの出産式サービスを実施することで、今まで表面にあまり出てこなかった妊婦さんの産前産後鬱や虐待・自殺等が出産を起因に起こりえる状況の下、全てを改善することは難しいですが、妊娠から産後6ヶ月までサポートを行うため、出産した後も1人でも多くの妊婦さんを健やかに、過ごして頂きたいという想いで「Maternity bouquet」を提供するものです。</p>	
3.2	<p>新生児・5歳未満児の予防可能な死亡を根絶する</p> <p>すべての国が新生児死亡率を少なくとも出生1,000件中12件以下まで減らし、5歳以下死亡率を少なくとも出生1,000件中25件以下まで減らすことを目指し、2030年までに、新生児及び5歳未満児の予防可能な死亡を根絶する。</p>	<p>新生児における説明は上記同様です。出産後6ヶ月までサポートを行うため、妊産婦及び新生児もサポート対象となり、左記に貢献するよう、サービス提供及び開発を行います。</p>	
5.1	<p>女性に対する差別をなくする</p> <p>あらゆる場所におけるすべての女性及び女子に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。</p>	<p>当社は女性・女子に対する差別について、会社においてはもちろんのこと、「Maternity bouquet」は産婦人科・産科を介し、妊婦さんは女性であり、あらゆる形態の差別は当然に無いよう、慎重に対応致しています。そのためには、家族及び大切な人との絆を深めることが大切であり、その仕掛けを「Maternity bouquet」が創っています。</p>	

SDGs(Sustainable Development Goals)への取り組み

02

	サステナビリティ重点項目	当社の主な取組み	SDGsとの対応
5.2	<p>女性に対する暴力をなくす</p> <p>人身売買や性的、その他の種類の搾取など、すべての女性及び女児に対する、公共・私的空間におけるあらゆる形態の暴力を排除する。</p>	<p>「Maternity bouquet」サービスを用いた産婦人科において妊婦さんが、家族や大切な人との絆を深め、産後のサービスもあることから、副次的に女性に対するあらゆる暴力が減ることを啓蒙するよう努めます。</p>	 <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>
17.14	<p>政策の一環性の強化</p> <p>持続可能な開発のための政策の一貫性を強化する。</p>	<p>「Maternity bouquet」は全国に産婦人科・産科が約4,000箇所ある内、300箇所に導入することを目標としており、また、継続的にサポートするサービスであり、当社においても利益を持続可能な開発に充当し、更なる品質向上を求めるサイクルを実現させます。</p>	 <p>17 パートナシップで目標を達成しよう</p>
17.16	<p>持続可能な開発を行うためのパートナーシップを築く・強化する</p> <p>持続可能な開発を行うためのパートナーシップを築く・強化する</p> <p>すべての国々、特に開発途上国での持続可能な開発目標の達成を支援すべく、知識、専門的知見、技術及び資金源を動員、共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する。</p>	<p>「Maternity bouquet」は脳科学者 茂木健一郎氏様他、有識者の方々に監修・アドバイザーの下で開発を行っており、全国産婦人科病院・クリニックならびに妊娠・ベビー関連企業との連携しております。様々な方々とのパートナーシップを得て開発したものです。</p>	 <p>17 パートナシップで目標を達成しよう</p>



妊婦と医師、そしてパートナーや家族をつなぎ、
気持ちや思いをスムーズに届ける仕組みを
提供することで妊婦の精神的負担を軽減し、
穏やかに幸せに満ちた日々を過ごしていただけるように、
私たちはこの「Maternity bouquet」を開発しました。

Maternity bouquet

妊婦さんにエールと花束を！

妊娠初期から産後まで継続的に妊婦をサポートする

妊婦が、医師や家族など周りの人々に支えられ、応援されているという思いを実感することは、妊娠中の精神的な負担の軽減と、穏やかに幸せに満ちた日々につながります。身体の変化とともに不安から起きるマタニティブルーや産後うつの発症も、周りとの関係性や絆で防ぐことも可能です。日本は医療においては安心して出産できる環境ですが、医療の安心とは別に出産までの不安な気持ちは、現在でも多くの妊婦が抱える気持ちであることは変わりません。そうした妊婦の気持ちに医師は医療、精神面の両方で惜しみない努力をされていますが、出産までのおよそ10か月、日々共に過ごすパートナーや家族など周りの精神的支援も大きな力となります。妊婦と医師、そして家族やパートナーをつなぎ、気持ちや思いをスムーズに届ける仕組みを提供することで妊婦の精神的負担を軽減し、穏やかに幸せに満ちた日々を過ごしていただけるのではないかと。そんな思いで、私たちはこの「Maternity bouquet」を開発しました。Maternity bouquetは、専用アプリ(デジタルプラットフォーム)を通じて、パートナーや家族が妊婦を見守るアクションを自然に誘導したり、妊婦を応援する気持ちをメッセージにして可視化します。また、医師に対して事前質問を送信する機能をつけることで、病院との連携がより深く、スムーズになり、妊婦の精神的な負担の軽減と心穏やかなマタニティライフを提供します。妊婦への精神的支援は、出産後の育児にも良い影響があるというご意見を脳科学者茂木健一郎氏、お茶の水女子大学名誉教授榊原洋一氏、産前産後アドバイザー赤星由美子氏など有識者からもいただきました。Maternity bouquetは、すべての妊婦が健康で穏やかなマタニティライフを過ごし、無事に産後を迎えられるように医療機関と連携してサービスを提供します。



監修・アドバイザー



**妊婦さんがよい出産だったと感動できることは
出産後の母親の生活にとっても大切なことだと思います。**

脳科学者 茂木健一郎氏

妊娠出産はうれしいことであると同時に、大きな変化であるため、脳は感情の回路などでとても不安に感じます。その時、妊婦さんにとって一番大切なのが夫、家族などとの絆です。不安を一人で抱えるのではなく、周りとの絆があると安心して出産にも前向きになれるので、絆をいかに感じるかがポイントです。また、妊婦さんはおよそ10か月間の妊娠生活を経て出産という大きなイベントを成し遂げるわけですが、出産後に、自分が経験してきたことを振り返って、ひとつの物語、ストーリーとして脳の記憶の回路にちゃんと届けてあげると、そのあとの気持ちの整理が全然違います。無事出産したことを、あー、本当によかった、感動したなあ、幸せだなあと、きちんと振り返って脳の中で整理してあげることで、その後の生活においても、これから経験するであろう様々な出来事や、新しいチャレンジにも前向きにポジティブな気持ちで向き合えるようになると思います。特に映像や音など、目に見える形にしてストーリーにすると、脳が感動体験をより深く味わえます。Maternity bouquetは妊婦さんへのそうしたメンタル面でのサポートを促すサービスとして良いと思います



**妊婦さんの幸福な気持ちは、
おなかの赤ちゃんの発達に良い影響を与えます。**

お茶の水女子大学名誉教授・小児科医 榊原洋一氏

妊婦さんの幸福な気持ちは、ホルモンの変化を通じておなかの赤ちゃんの発達に良い影響があることが医学的に証明されています。また幸福な出産体験は、赤ちゃんとの愛着関係を促進します。Maternity bouquetは、幸福な妊娠と出産体験を育む環境を提供します。



**Maternity bouquetは、
妊婦さんにとって満足のいく出産を応援するサービスです。**

産後プランニングサービス株式会社 赤星由美子氏

Maternity bouquetの完成を心待ちにしていました。このサービスには、妊婦の時間を充実したものにし、出産を楽しくして、産後を健やかに過ごすことができる仕掛けがたくさんあります。母となる女性とその家族に寄り添い、充実した生活に導いてくれることでしょう。



**私たちが理想とするのは
「気持ちをつつみこむようなクリニック」です。**

せきレディースクリニック 理事長・院長 友影九樹氏

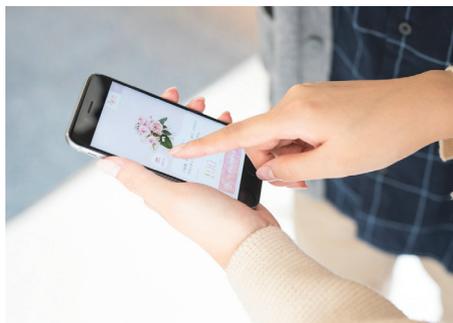
当クリニックでは、日々ご利用いただくすべての女性の皆様をできる限りサポートできればと考えております。特に妊婦の皆様とは出産まで10か月間のお付き合いになりますので、医療の面だけではなく、日々抱えるさまざまな気持ちも共有し、支えていくことが大切だと考えております。Maternity bouquetは、デジタル機能を使って妊婦様のみならず、婦人科疾患の患者様とクリニックとのコミュニケーションがよりスムーズになるように作られたサービスです。このサービスの導入で、私たちが理想とする「気持ちをつつみこむようなクリニック」にさらに近づけられれば、幸いです。



妊婦が出産まで安心して過ごせる環境を作る

デジタルを活用し、 妊婦の精神的不安を軽減し、 出産の喜びを最大化するサービス

Maternity bouquetの専用アプリ(デジタルプラットフォーム)を通じて、家族やパートナーが妊婦を見守るアクションを自然に誘導したり、妊婦を応援する気持ちをメッセージにして可視化する。また、アプリを通じての医師への質問の送信機能などを使い、病院との連携をより深く、スムーズにすることで妊娠期間中の日々の生活を安心できる環境にします。さらに、無事に出産した妊婦を祝福するセレモニー「出産式」という新しい文化を提案します。「出産式」とは、退院時に出産までの写真を取り込んだオリジナルムービーの鑑賞と、家族、医師やスタッフからの祝福で出産体験を人生の感動的イベントとして記憶に残してもらうセレモニーです。



◎SERVICE.1

かかりつけ医へ気になることを、診察前に伝えておくことができます。



◎SERVICE.2

家族・パートナーからの「出産エール」が分娩室に届きます。



◎SERVICE.3

マタニティライフの集大成を一本の動画に。「出産式」で披露。家族と感動を共有します。



妊婦が出産まで安心して過ごせる環境を作る

病院・クリニック施設の空間を演出し、 妊婦が病院・クリニックにいる時間を 幸せに満ちた場所に

妊婦や患者にとって病院の施設が、心地よい空間であることで、医師やスタッフのホスピタリティが伝わります。特に妊婦にとっては、出産する病院の心地よさが満足いく出産体験につながります。

◆ エントランス・待合室



妊婦が通院のたびに訪れる待合室にはアプリと連動したデジタルアートと音楽でリラックス空間を設計。

◆ 分娩室



「出産エール」として分娩室のモニターに家族などからの応援メッセージが表示。
また、心音感知器と連動するデジタル映像で、生まれてくる赤ちゃんとの連帯感を演出。



「家族で支える育児」で、産後の母親の育児・家事の負担を軽減する

Maternity bouquetの

「家族で支える育児」への相談・アドバイス

出産後の母親の育児や家事の負担を周りの協力により軽減することで、産後の女性の健康維持と、無理なく日常生活に復帰して子育てと仕事など、生き甲斐のある時間が持てるように、パートナーや家族に理解を得られるように啓蒙し、妊婦をサポートします。近年では、核家族化の増加や出産年齢の高齢化などで、妊娠中の生活や出産後の育児を手伝える家族が身近にいない傾向にあります。無事出産したものの、母親の自宅に戻ってからのワンオペ育児は精神的に疲弊しがちで、産後うつや育児放棄へと発展する可能性もあると危惧されています。慣れない育児に戸惑う母親に、家族が関心をもって協力することが必要です。産褥期の過ごし方や、育児や家事についてパートナーや家族と妊娠中から話し合い、早くから産後の育児の在り方について関心をもってもらうことも大切です。最近では、近くに頼れる身内がない母親は、ドゥーラやネウボラなどのサポートスタッフに委託することもできます。育児をパートナーや家族がサポートする。または、外部の信用できる人に委託するなど、妊娠中から話し合い、早めの対応で解決しておきたい案件です。Maternity bouquetは「家族で支える育児」という考え方を啓蒙しています。



Maternity bouquet アプリ

◎SERVICE.1

産後6か月間の育児のアドバイス

アプリ内では、妊娠中の健康や、出産に向けての準備などのアドバイスを定期的に配信。出産後は母親の健康や子育てについてのアドバイスを配信します。また、妊娠中から、パートナーや家族に産後の育児に関心をもってもらうようにアプリ内のいろいろな機能で促します。アドバイスは、産前産後アドバイザーで、ドゥーラでもある赤星由美子氏が監修。

◎SERVICE.2

産後アドバイザーの助言や ドゥーラの派遣などの相談

産後の育児を身内で手伝ってくれる人がいないケースはが増えていきます。日本ではまだ、あまり一般的ではありませんが、信頼できる外部スタッフに委託することも選択肢の一つです。産後うつを発症する母親が10人に一人といわれています。今の子育てをする母親の環境では、ひとりで子育てではなく、みんなで子育てという考え方で、母親の育児を見守っていきたいと考えます。

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



SDGs達成に向けた取り組みで多くの関係者との協力を強化

女性の妊娠・出産・育児における課題を 多くの関係者との協力で推進する

Maternity bouquetの取り組みについて、全国の産婦人科病院・クリニックの医療機関だけではなく、妊娠・出産・育児に関連する企業へも説明や提案を実施。商品説明と共に、妊婦への精神的サポートの必要性を啓蒙し、SDGsの取り組みを社会的課題として各関係者との協力を強化しています。

◆ 連携企業

全国産婦人科病院・クリニック

妊娠・ベビー関連企業

